



洋上アルプス

No.329 2022年8月5日



発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333



令和4年度 第1回 屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催（7月14日～15日）

令和4年度の第1回世界遺産地域科学委員会とヤクシカワーキンググループ（ヤクシカWG）及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議が2日間にわたり開催されました。

会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様リモートにより実施されました。

■ ヤクシカWG及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の概要（7月14日）

会議では、①ヤクシカの生息状況等について、②捕獲等の被害防止対策について、③森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等、④特定エリアの対策（西部地域）、⑤屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況の評価について、⑥今後のヤクシカ管理方針について、各機関より説明等がありました。

ヤクシカの生息状況は、R2年度と比較し島南部の一部で著しく増加しているが、島全体の個体数推定ではR2年度と同程度との報告があり、農作物等への被害は減少傾向にあるがタンカン等への被害や希少植物の食害も多いとの報告がありました。

また捕獲数については、前年度と同程度との報告があり、今後の被害防止対策として、民有林及び国有林での捕獲場所などを関係機関がしっかりと共有し連携して取り組むことなどを確認しました。

■ 科学委員会の概要（7月15日）

主な議題は、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について、②令和3年度世界遺産地域モニタリング調査等結果及び令和4年度世界遺産地



ヤクシカの生息状況等について検討（ヤクシカWG）

域モニタリング調査等計画について、③屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況の評価について、④屋久島世界遺産地域管理計画の改定について、⑤屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会について等、各機関から説明がありました。

九州森林管理局からは、令和3年度世界遺産地域モニタリング調査等結果及び令和4年度世界遺産地域モニタリング調査等計画について及び屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会について説明がありました。

委員からは、来年、世界自然遺産に登録されてから30周年になるが、これまで世界自然遺産に登録された5地域がイベント等をそれぞれ個別に行ってきたが、これからは5地域が横並びでどのような問題があるのか整理して、情報を共有するよう意見が出されました。

口永良部島新岳噴火の植生影響調査プロットの天板を交換

当保全センターにおいては、口永良部島新岳の噴火による火山灰が植生に与える影響を調べるため、屋久島島内国有林に9箇所の調査プロットを設置しています。

植生に影響を与える噴火が発生した場合は調査用天板に積もる降灰状況と周囲の植生を撮影して世界自然遺産地域科学委員の意見を仰ぐことになっています。

平成27年5月の大噴火以降、近年は大きな噴火も無く、また火山活動もレベル2になったところですが、調査プロットに設置している黄色い天板が台風等により老朽化しており、今回新しい天板に交換しました。

7月24日には桜島において噴火が発生しており、自然災害はいつ起こるかわかりませんので、迅速な対応が出来るよう各機関と連携していきたいと考えています。



黒味国有林内の天板の交換

GW期間中における自然休養林入林者数が徐々に回復傾向



コロナ禍で入林者が減少していたヤクスギランドおよび白谷雲水峡でしたが、ゴールデンウィーク期間中の入林者を前年度と比較すると30%増で、コロナ前の令和元年度の約50%まで回復している状況です。

コロナ禍、第7波の真只中ではありますが、感染防止対策等もとりつつ、今後、国内のみならず外国からの入林者についても徐々に回復していくことを期待しています。

◀ 白谷雲水峡(苔むす森付近)

GW期間中の入林者数(データ:屋久島レクリエーションの森保護管理協議会事務局より)

	R元年度 (4/27~5/6)	R3年度 (4/30~5/9)	R4年度 (4/29~5/8)
ヤクスギランド	3,466	1,202	1,613
白谷雲水峡	6,525	2,497	3,250
計	9,991	3,699	4,863

※ R2年度はGW期間中休園

30年ぶりの屋久杉巨樹・著名木調査実施に向けて現地検討会を開催

屋久島は平成5年（1993年）12月に世界遺産リストに登録され、令和5年で30周年を迎えることとなります。

平成4年に、国有林野内に賦存する代表的な屋久杉等を、屋久杉自然館と上屋久営林署及び下屋久営林署等が中心となって、約1年間を要し調査を実施しました。その結果は平成5年8月に屋久杉自然館が発行した「屋久杉巨樹・著名木」で広く公表されています。

現在、屋久杉巨樹・著名木一覧には37本が登録されていますが、これまでの30年間に6本（翁杉、仁王杉[阿形]、蛇紋杉、母子杉[母]、しゃらの大杉、白谷大杉）が枯死等しており、今後も台風等による倒木や枯死が危惧されることから、個々の屋久杉の現状を調査しデータ保存し、後世に残すことが重要と考えています。

一方、森林・樹木の計測技術の進歩は著しく、3次元レーザー計測やドローン等が森林計測にも活用されており、これらの機器を用いることにより、屋久杉の形状や植生等を正確に記録することが期待されます。

このため、令和5年の世界自然遺産登録30周年記念行事の一環として、国有林野内に賦存する



現地検討会の様子

「屋久杉巨樹・著名木」に登録されている37本を中心に再調査を実施することとし、「屋久杉巨樹・著名木調査検討会」を本年3月に開催し、当保全センターが事務局となり調査の準備を進めているところです。

そこで早速7月27日（水）に、調査にあたっての現地検討会を紀元杉で実施しました。検討会委員等18名に加え、当検討会アドバイザーの九州大学総合研究博物館協力研究員吉田茂二郎氏にも参

加いただき、調査にあたってのご指導・助言を頂きました。

特に、様々な形状となる屋久杉の胸高周囲長や樹高の計測にあたって、具体的な計測位置やヤマグルマ等共生木の取り扱いなどを確認共有することができました。

今後、新たな機器として、ドローン、GoProカメラ、森林3次元計測システム（OWL）などについても使用可能な箇所を活用し、島内の関係機関等の協力を頂きつつ、年度内に調査が終えられるよう進めていくこととしています。



胸高周囲長測定の様子（紀元杉）



屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

〔標高600mプロット（シアンヌタ谷）〕 確認種数：93種（平成27年度調査：66種）

◆調査結果の概要 プロットは沢を横断し、沢の南東側に急斜面、北西側に緩斜面が広がり、大きな岩石が点在する。高木層はヤクシマオナガカエデを優占種とし、エゴノキ、カラスザンショウ、ヒメシャラ、ヤマザクラといった落葉広葉樹が中心である。岩石が多いため、亜高木・低木の生育が物理的に制約されるが、空中湿度は高く、沢に跨る傾斜・方角の異なる斜面にシダ類が豊富である。ただし、カナクギノキは唯一の亜高木の個体が枯死し、他の階層にも存在しないため更新が危惧される。ホソバタブ、マテバシイ、ヤブニッケイ、サカキの萌芽枝等にシカ食痕が見られる。

◆優占種の変化

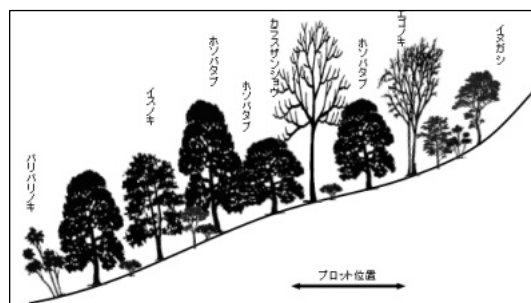
階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層 (8.0m以上)	ホソバタブ	エゴノキ	ヤクシマオナガカエデ	ヤクシマオナガカエデ
亜高木層 (4.0m~8.0m)	ホソバタブ	ホソバタブ	ホソバタブ	ホソバタブ
低木層 (1.2m~4.0m)	サザンカ	イスノキ	サクラツツジ	サクラツツジ
草本層 (1.2m未満)	アリドオシ	アリドオシ	サザンカ	ヒサカキ



太さが際立つ
ヤクシマオナガカエデの大径木 (中央)



カラスザンショウ大径木の
損傷した根元部分



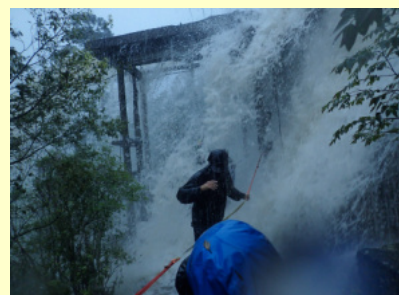
標高600mプロットの群落横断面図

※群落横断面図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

木に逢う日々（第7回）「屋久島での自然災害」

当保全センター GSS 野々山 富雄

大自然は美しいものです。と同時におそろしいものでもあります。
山深い屋久島は美しさにばかり目を取られていると、危険なことにもなりかねません。
残念ながら事故怪我はよくあり、それが大きな遭難に繋がることもあります。注意していれば、避けられた事故もあるけれど、想定を超えた悪天候によってもたらされた事故もありました。
2019年5月18日、屋久島は記録的な豪雨に襲われました。
道路は土砂崩れて分断し、そのため縄文杉登山口、荒川口でガイドを含む300人以上が下山できず、一夜を明かすという大災害が起こりました。
しかし幸いなことに一人の死者負傷者も出ず、翌日、全員無事に救助されております。
ガイド仲間達が連携し、すべてのお客様の安全を最優先に誘導したおかげだと思います。
そんな悪天候時に、なぜ山行を決行したのだと、批判の声があることは承知しています。確かにその前日から大雨になるという予報はありました。
しかしその当日の朝は雨足は強くはあったけど、大雨警報も、注意報も出てはなかったのです。
私は当日、休みだったので登山口に行っていませんが、もし、そこにいたら出発していたかもしれません。
(写真はその災害時と平時の同じ地点。水除けは災害後、建て直されました)



災害時



平時（災害後建て直し）